総 務 政 策 常 任 委 員 会 委 員 会 調 査 報 告 書

令和７年９月３日（水）に、ライフイノベーションセンター外１か所において、次の事件について調査を実施したところ、その概要は別添のとおりでした。

【調査事件】

ヘルスケア・ニューフロンティアの総合的企画、調整及び推進に関する事項について

令和８年１月 22 日

神奈川県議会議長　　長　田　進　治　様

総務政策常任委員会委員長　市　川　和　広

１　調査の概要

⑴ 調査日程

令和７年９月３日（水）

⑵ 調査箇所

ア　ライフイノベーションセンター（川崎市川崎区殿町３－25－22）

イ　湘南ヘルスイノベーションパーク（湘南アイパーク）
（藤沢市村岡東二丁目26－１）

⑶ 出席委員（計13名）

市川和広委員長、西村くにこ副委員長、
ます晴太郎、田中徳一郎、高橋栄一郎、杉山信雄、松田良昭、米村和彦、
斉藤たかみ、青山圭一、小田貴久、石川裕憲、日浦和明の各委員

⑷ 随 行 者

髙村主任主事（議会局議事課）、佐藤主幹（政策局総務室）、
曽根副主幹（総務局総務室）

⑸ 行　　程

県庁～ライフイノベーションセンター～湘南ヘルスイノベーションパーク（湘南アイパーク）～県庁

２　ライフイノベーションセンター

⑴ 調査目的

ライフイノベーションセンターは、本県が平成28（2026）年４月に次世代の医療として大きな成長が期待される再生・細胞医療の産業化に向けて整備し、最先端のライフサイエンス産業・研究機関の集積を生かして、再生・細胞医療の有望なシーズの実用化・産業化を目指した事業を進めている。

そこで、ライフイノベーションセンターを訪問し、殿町地区におけるヘルスケア・ニューフロンティアの総合的企画、調整及び推進に関する取組を調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

⑵ 調査先出席者

ア　政策局

杉山力也いのち未来戦略統括官、牧野義之参事監（特定課題担当）、
河野智子国際戦略ライフイノベーション担当課長、石田光位企画調整担当課長

イ　独立行政法人　神奈川県立産業技術総合研究所（ＫＩＳＴＥＣ）

理事２名、グループリーダー

ウ　株式会社　理研ジェネシス

執行役員、職員

(3) 屋上見学

(4) 正副委員長挨拶

(5) いのち未来戦略統括官挨拶及び出席者紹介

(6) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

ア　ヘルスケア・ニューフロンティア政策

～殿町での取り組みを中心に～（いのち・未来戦略本部室）

(ｱ) 超高齢社会の到来

(ｲ) ヘルスケア・ニューフロンティアの推進

(ｳ) 殿町（キングスカイフロント）

(ｴ) ライフイノベーションセンター（ＬＩＣ）

(ｵ) 再生・細胞医療バリューチェーンモデル

(ｶ) ＬＩＣの主な入居企業等

(ｷ) かながわ再生・細胞医療産業化ネットワーク（ＲＩＮＫ）

(ｸ) ＲＩＮＫの主な活動内容

(ｹ) 「はたらく細胞」と連携したスタンプラリーの取組

イ　実用化実証事業「毛髪再生医療実証」グループ（ＫＩＳＴＥＣ）
ウ　精密医療の拡大を目指して（理研ジェネシス）
　(ｱ) 会社概要
　(ｲ) 沿革
　(ｳ) 事業領域
　(ｴ) ＮＣＣオンコパネルシステム（クリニカルシーケンス）
　(ｵ) 品質保証システムと業許可
　(ｶ) 主な遺伝子解析プラットフォーム

(7) 質疑応答

質　疑　毛髪再生やがんゲノムについて、競合他社とどのように差別化を図っているのか。
　また、県の施設整備の見える化の視点で、どのように県民へ還元していくのか。県民が恩恵を受けたと実感できるには、まだまだ時間がかかる印象を持つが、今後の展望等を教えてほしい。

応　答　毛髪再生は世界的には資生堂が競合相手であるが、培養工法の工夫により、資生堂より優れた効果が出ている。
　ロート製薬との連携によって、一緒に臨床試験を進めようという段階に来ている。見える化という点では県の取組をテレビや新聞等で広げていきたい。
　がんゲノムの検査について、競合他社でも同様のことを行っているが、保険適用で実施できることをアピールしている。また、がんセンター等、県有施設とも連携をして、県民にとってがんパネル検査が身近なものとなるよう進めていきたい。

質　疑　毛髪再生についてテレビで特集を組まれたとのことが、テレビ局から連絡が来たのか、もしくは、ＫＩＳＴＥＣ側から仕掛けたのか。

応　答　制作会社から突然メール連絡が来たことがきっかけである。

質　疑　今年、県が実施した「はたらく細胞」とコラボしたスタンプラリーについて、実施状況はどうか。

応　答　限定アクリルキーホルダーは予定を上回る３００個以上を提供し、チラシも配布しているが、どんどんはけている状況である。

質　疑　10年前の立ち上げの際には５年・10年と目標を立てて進めてきたと承知しているが、順調に進んでいるのか、それとも道半ばなのか。また、全体的な課題としてどのようなものがあり、どうしていこうとしているのか。

応　答　当時、ライフサイエンスを誘致しようというのは川崎市主導であったが、

土地をどう埋めていくかという際に、２兆円規模のヘルスケア産業をどの程度この場所へ持って来られるか、そして、この施設内にどれだけベンチャーを誘致できるかが鍵であった。

全体的な課題としては、再生細胞の課題は、日本の神戸と殿町が二大拠点となったが、産業化は道半ばであり、臨床機能がないというのがその理由と考えている。個別課題としては、搬送や自由診療をどう進めるかといったことがある。

ＫＩＳＴＥＣにおいては、県の公設試験研究機関として再生・細胞医療の産業化に向けて、均一性、再現性について評価、継続していく。全国的に見ても公的機関が担っているところはない。神奈川県が初めて、地域で標準化、認証を始めようとしている。

質　疑　具体的に、この施設をどのように活用して、県民が実感できるように還元できる取組とするのか、施設全体として確認したい。

また、入居しているベンチャーの事業について、県民の資産を使う以上、県が進捗をチェックする必要があるのではないか。

応　答　県民への還元について、将来を担う若者に向けては、スタンプラリー等を通じて科学技術に興味を持ってもらう。中高生向けには、企業の協力により白衣を着て体験してもらう等の取組がある。また、再生・細胞医療にたくさんの企業が取り組んでいることを、医療機関を通じて県民に伝えていきたい。

ベンチャーの事業進捗のチェックについては、投資側に入ってないと難しいが、公開情報などで把握するほか、企業担当者との日常会話や業務の会話の中で聞き取る等している。

質　疑　毛髪再生医療が一般に提供可能となった際には、県民に優先的に提供する、県民割を適用するなどの取組は考えられるか。

応　答　企業と一緒に進めている事業であるため、ＫＩＳＴＥＣの中でそういった話は検討していない。

(8) 館内視察

(9) 調査結果

○　殿町地区におけるヘルスケア・ニューフロンティア政策の概要は次のとおりとのことであった。

・　ヘルスケア・ニューフロンティアは、最先端医療やデータ・ＡＩ等の活用により、県民の健康寿命延伸と新たな産業創出を目指す取組である。殿町地区には、再生・細胞医療の産業化拠点としてライフイノベーションセンター（ＬＩＣ）を中心に、実中研、ナノ医療イノベーションセンター（ｉＣＯＮＭ）、川崎生命科学・環境研究センター（ＬｉＳＥ）、国立医薬品食品衛生研究所（国衛研）、ＫＩＳＴＥＣ、理研ジェネシスなどが集積している。企業・研究機関が徒歩圏内で連携できる点が大きな強みとなっている。

○　ライフイノベーションセンターにおけるヘルスケア・ニューフロンティア推進の取組は次のとおりとのことであった。

・　ライフイノベーションセンターは敷地面積約8,000平米、４階建ての施設で、１階から大量培養や搬送、２・３階に関連企業、４階にベンチャーフロアを配置している。再生・細胞医療の研究開発から製造、評価、搬送までを一体的に行える環境を整備し、高額機器を県が整備した後に民間運営へ移行するモデルも構築している。また、ラウンジや交流イベントを通じ、企業間連携とイノベーション創出を促進している。

・　再生・細胞医療分野全体を底上げするため、平成28（2016）年に「かながわ再生・細胞医療産業化ネットワーク（ＲＩＮＫ）」を設立し、現在213社が参画している。製造の再現性、輸送、制度面などの課題について議論・検討を行っている。

・　ＫＩＳＴＥＣでは、再生細胞を用いた毛髪再生医療の研究が進められ、大学・実中研・国衛研との連携により高い評価を得てベンチャー創出、技術移転、臨床試験準備へと発展している。

・　理研ジェネシスでは、がん遺伝子パネル検査「ＮＣＣオンコパネル」を国立がん研究センターと共同開発し、保険診療下で多数の検査実績を有するなど、精密

医療の社会実装が進んでいる。

・　県民への認知向上策として、人気作品「はたらく細胞」と連携したスタンプラリー等を実施し、県ホームページへのアクセス数が大幅に増加するなど、効果的な広報手法の実証が行われている。

これらライフイノベーションセンターにおける研究・評価・産業化を一体的に進め、最先端医療を社会実装につなげる取組は、本県のヘルスケア・ニューフロンティアの推進に係る今後の委員会審査をする上で、参考となった。

３　湘南ヘルスイノベーションパーク（湘南アイパーク）

(1) 調査目的

湘南ヘルスイノベーションパークは、平成30（2018）年に武田薬品工業株式会社により設立され、幅広い業種や規模の産官学が結集してヘルスイノベーションを加速する場となることを目指し、製薬企業のみならず、次世代医療、細胞農業、ＡＩ、行政などの企業・団体が集積し、エコシステムを形成している。

そこで、湘南ヘルスイノベーションパークを訪問し、湘南地域におけるヘルスケア・ニューフロンティアの総合的企画、調整及び推進に関する取組を調査することにより、今後の委員会審査の参考に資するものとする。

(2) 調査先出席者

ア　政策局

杉山力也いのち未来戦略統括官、
河野智子国際戦略ライフイノベーション担当課長、石田光位企画調整担当課長

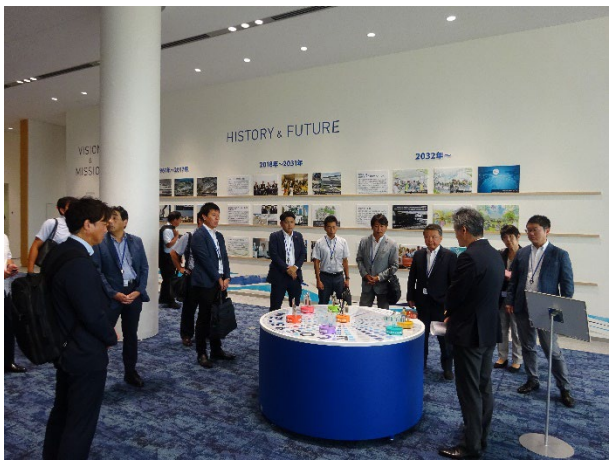
イ　横浜国立大学

産学公及び法人外組織戦略担当理事、総合学術高等研究院ＩＭＳ客員教授

ウ　横浜国立大学大学院

環境情報研究院教授

(3) 館内視察



(4) 正副委員長挨拶

(5) いのち未来戦略統括官挨拶及び出席者紹介

(6) 概要説明

次の内容等について、説明があった。

ア　ヘルスケア・ニューフロンティア政策
　～湘南での取り組みを中心に～（いのち・未来戦略本部室）
　(ｱ) ヘルスイノベーション最先端拠点（湘南）
　(ｲ) 村岡・深沢地区のまちづくり
　(ｳ) 村岡・深沢地区におけるヘルスイノベーションの取組
　(ｴ) 一般社団法人新湘南ウェルビーイング協議会の取組

イ　横浜国立大学新湘南共創キャンパスにおける取組について
　(ｱ) 横浜国立大学新湘南共創キャンパス
　(ｲ) 具体的な共創活動
　(ｳ) 健歩・まちあるきワークショップ「てくてくてっく」

(7) 立位年齢体験

(8) 質疑応答

質　疑　行政に対して必要とする後押しはあるか。

応　答　2019年の立ち上げ当時から県にもお世話になり、知名度も上がってきた。「立位年齢測定器ＳｔＡ²ＢＬＥ（ステイブル）」も今年、県庁に１台設置した。さらに、資金を獲得して広げていく取組に進んでいるところである。自治体とも連携しているが、イベント等、機会を探し、つながっていくことで住民の意識も変わり、取組が広がっていくことを目指している。また、健康診断にこの仕組みを絶対に入れたい。そういったことも含めて行政と連携していければと考えている。

質　疑　湘南アイパークにおける入居企業の入れ替わりは起きているのか。また、入居企業の審査はどこが行っているのか。

応　答　現在、テナント数は右肩上がりで満室に近く、相当のスピード感があり、勢いのあるスタートアップ企業が入り込んでいる状況である。
入居企業の審査は、湘南アイパークが行っている。

質　疑　県として湘南アイパークに横浜国立大学に入居してほしいという働きかけがあったということだが、他大学などへの声がけや今後の動きがあれば教えてほしい。

応　答　理化学系を中心とする学部を持っている大学に声がけしてきたが、横浜国立大学は学長自ら意向があり連携を密にした結果、今につながる。大学とは様々な面でコミュニケーションを取っている。

質　疑　湘南鎌倉総合病院との連携について、臨床の場として想定していると思うが青写真はあるのか。また、入居企業を見ると、医薬品までいかないにしても、食品、化粧品といったもの、特定機能性食品や機能性食品なども想定にあると思うが、ヒト臨床試験としての出口戦略はどのように考えているか。

応　答　湘南鎌倉総合病院との連携については、当然、想定はしているが、なかなか具体的な話は難しい。また、出口として食の扱いまでは県としてフォローしきれていない。企業が戦略を考えていく中で、湘南鎌倉総合病院へ臨床のオファーがあれば、県として橋渡しをしていく。

質　疑　転倒リスク計測装置の他施設での実績を確認したい。

応　答　2019年に立ち上げ、国内168施設で利用されている。主には、労働災害の防止、検診に活用されている。海外においてもブリヂストンが長く利用しているほか、最近では内閣府が主導するＪＡＰＡＮ　Ａｇｅ　ＴｅｃｈのＣＭでも紹介された。

(9) 正副委員長挨拶

(10) 調査結果

○　湘南地域におけるヘルスケア・ニューフロンティア政策の概要は次のとおりとのことであった。

・　湘南地域は、大学の進出や湘南鎌倉総合病院という中核病院が立地している点が大きな特徴である。また、実験環境や人の往来に制約が少なく、多様な主体が関与しやすい環境にある。これらの地域特性を生かし、ヘルスケア全般を対象としたイノベーション創出が進められている。

・　村岡・深沢地区は、ＪＲ東海道線新駅の設置が予定されており、将来的な産業集積のポテンシャルを有する地域である。令和元（2019）年には神奈川県、藤沢市、鎌倉市、武田薬品工業、湘南鎌倉総合病院による５者連携が締結され、令和５（2023）年には横浜国立大学が進出するなど、産学公医連携の基盤が整備されてきた。

・　新湘南ウェルビーイング協議会の取組は、５者連携を基に、次世代健康管理、次世代移動、アクティブライフデザインの３分野を軸に検討が進められ、その成果が一般社団法人新湘南ウェルビーイング協議会として外部化・事業化されている。健康状態の可視化による行動変容支援、介護タクシーの実証・アプリ化、立位年齢測定技術の商品化など、具体的な社会実装が進んでいる点が特徴である。

また、免疫ケアや未病分野など、ヘルスケア全体を対象とした取組が展開されている。

○　横浜国立大学新湘南共創キャンパスにおけるヘルスイノベーションの取組は次のとおりとのことであった。

・　新湘南共創キャンパスは、まちづくりへの参画と健康長寿社会の実現を目的に設置され、次世代ヘルステクノロジー研究センターを中心に、市民参画型のヘルスイノベーションを推進している。地域全体をキャンパスと捉え、学際研究、人材育成、ベンチャー創出を進めるとともに、今後整備される健康関連施設を実証研究の場として活用する構想が示された。

・　新湘南ウェルビーイングコンソーシアムを母体に、健康管理・移動・アクティブライフに関する共創活動が行われている。大学生の地域実践教育、国際的な人材育成プログラム、地域の児童生徒との交流など、多様な人材が関わる点が特徴である。さらに、「てくてくてっく」といった住民参加型ワークショップを通じ、地域課題の発見と技術開発を結びつける取組が進められている。

これら湘南ヘルスイノベーションパークにおける県行政と横浜国立大学が連携した地域密着型の健康政策や産業振興の取組は、本県のヘルスケア・ニューフロンティアの推進に係る今後の委員会調査をする上で、参考となった。